

ご 挨拶

第1回日本緩和医療学会中国四国支部学術大会長 齊藤洋司
(島根大学医学部麻酔科学講座教授)

第1回日本緩和医療学会中国四国支部学術大会を、2018年9月8日(土)に松江市のくにびきメッセ(島根県立産業交流会館)にて開催させていただくにあたり、ご挨拶申し上げます。日本緩和医療学会も20年の歴史を超え、各地域に支部を設立されました。支部活動の基盤となる学術交流を通して、地域における緩和ケアの教育・普及・連携ならびに研究成果の社会還元を目的に、支部学術大会を定期開催することが決まりました。この度、最初の中国四国支部学術大会長を務めさせていただくこととなり、たいへん光栄に存じます。

支部設立から支部学術大会開催に至るまで十分な準備期間が取れず、また試行錯誤で整備していかなければならない課題も多く、参加の皆様には多々ご不便をおかけいたしますが、実り多い学術交流の場となりますようスタッフ一同、鋭意、準備を進めております。多数のご参加で大会を盛り上げていただけますよう、会員皆様のご理解、ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

本学術大会のテーマは「明日へつむぐ」といたしました。緩和ケアはまだまだ発展の途にありますが、まさしく多職種の糸を、医療と社会を縦、横に細い糸をつむぐことで緩和ケアの礎を築いてきました。地域の特徴、背景をもとに支部学術大会を立ち上げる今、明日へ向かっての緩和ケアをつむぐ、その礎となるような大会にしたいとの思いからのテーマです。

本大会は教育的プログラムを柱とした企画にしております。特別講演、教育講演、シンポジウムなどの特別演題に加え、口演による一般演題の構成としております。一般演題には多くのご応募をいただき、49演題を採択できましたこと、皆様のご支援の具体と感謝しております。特別講演では、大西秀樹先生に「がん患者家族・遺族の抱える苦悩、およびその対応について」をテーマにご講演をいただきます。シンポジウムは、「緩和ケアをつむぐ人へ」と「緩和ケアー地域連携をつむぐー」を企画しており、後者に先立っては加藤雅志先生に「緩和ケア地域連携の構築」をテーマとした基調講演をお願いしております。

前日9月7日(金)には共催イブニングセミナーとして、「Whole Person Careの理論と実践：心を調べ、心を開き、心を込める」のテーマで恒藤 暁先生にご講演をいただきます。当日の共催セミナーでは、木澤義之先生「非がん患者の緩和ケアとACP」、木村祐輔先生「緩和ケア地域連携を实践する」、余宮きのみ先生「広がるオピオイドの選択肢」、川原玲子先生「緩和医療における漢方治療の実際」、里見絵理子先生「難治性がん疼痛～メサドンを効果的に使うコツ～」など、各分野の第一人者の先生方にご講演をいただきます。

島根には、出雲大社、松江城をはじめとする観光名所も多くあります。学術大会ご参加の機会に、郷土の味覚、玉造温泉などの湯所とともに、初秋の島根を満喫していただければ幸いです。皆様のお越しを心よりお待ちしております。